

**製品名: KCNH1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab12938**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	110kDa

**抗原情報**

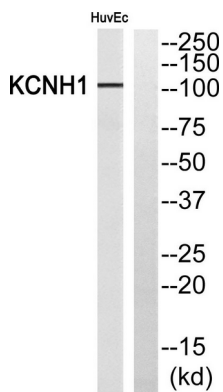
遺伝子名	KCNH1 KCNH1; EAG; EAG1; Potassium voltage-gated channel subfamily H member 1; Ether-a-go-go
別名	potassium channel 1; EAG channel 1; h-eag; hEAG1; Voltage-gated potassium channel subunit Kv10.1
遺伝子 ID	3756.0
SwissProt ID	O95259
免疫原	抗血清はヒト KCNH1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 720-769

**背景**

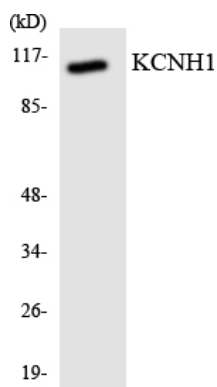
電位依存性カリウム (Kv) チャンネルは、機能的および構造的観点から、電位依存性イオンチャンネルの中で最も複雑なクラスに属します。その多様な機能には、神経伝達物質の放出、心拍数、インスリン分泌、神経細胞の興奮性、上皮電解質輸送、平滑筋収縮、細胞容積の調節が含まれます。この遺伝子は、電位依存性カリウムチャンネルサブファミリー H のメンバーをコードします。このメンバーは、電位依存性非活性化遅延整流性カリウムチャンネルの孔形成 ( $\alpha$ ) サブユニットです。これは筋芽細胞分化の開始時に活性化されます。この遺伝子は、脳および筋芽細胞で高度に発現しています。この遺伝子の過剰発現は、癌細胞の成長に有利に作用し、腫瘍細胞の増殖を促進する可能性があります。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする 2 つの転写バリエーションが生成されます。[提供疾患: EAG の過剰発現は、癌細胞の増殖に有利に作用し、腫瘍細胞の増殖を促進する可能性がある。]、ドメイン: セグメント S4 はおそらく電圧センサーであり、3 つおきに正に帯電したアミノ酸の配列を特徴とする。、機能: 電位依存性非活性化遅延整流性カリウムチャンネルのポア形成 ( $\alpha$ ) サブユニット。チャンネルの特性は cAMP とサブユニットの集合によって調節される可能性がある。筋芽細胞において IK(NI) 電流を媒介する。、類似性: カリウムチャンネルファミリーに属する。H (Eag) サブファミリー。、類似性: 環状ヌクレオチド結合ドメインを 1 つ含む。、類似性: PAC (PAS 関連 C 末端) ドメインを 1 つ含む。、類似性: PAS (PER-ARNT-SIM) ドメインを 1 つ含む。、サブユニット: カリウムチャンネルは、おそらく、調節  $\beta$  サブユニットと会合できるポア形成  $\alpha$  サブユニットのホモまたはヘテロ四量体複合体で構成されている。KCNH5/EAG2 とヘテロ多量体を形成する。ALG10B と相互作用する。、組織特異性: 融合開始時に脳および筋芽細胞で高発現するが、他の組織では発現しない。HeLa 細胞 (子宮頸癌)、SH-SY5Y 細胞 (神経芽腫)、MCF-7 細胞 (上皮性腫瘍) で検出されるが、正常上皮細胞では検出されない。、

## 研究分野

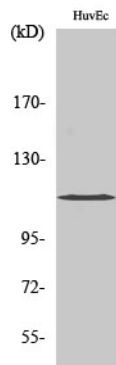
## 画像データ



KCNH1 抗体のウェスタンブロット解析。右レーンは KCNH1 ペプチドでブロッキングされている。



KCNH1 抗体を使用した COLO205 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



KCNH1 ポリクローナル抗体を 1: 2000 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット分析した。